

ソフトウェア時代のモビリティ: ボッシュ、さらなる成長に向けて自動車関連事業を再編 2029年までに売上高 800 億ユーロ超を目指す

2023 年 5 月 4 日
PI 11653 BBM joe/af

- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 内に、事業責任を負う新体制「ボッシュ モビリティ」発足
- ▶ マルクス・ハイン率いる 5 人の強力なリーダーシップチームがあらゆる自動車関連事業を運営
- ▶ ハイン:「ボッシュは以前より、自らを自動車向けソフトウェア企業と見なしてきました。そして今、私たちはお客様の要求に対応する体制へと、変えているのです」
- ▶ 自動車ソフトウェア市場は、2030 年までに 2,000 億ユーロ規模に成長

シュトゥットガルト／レニンゲン(ドイツ)– 自動車分野では、IT を通じてますます多くのイノベーションが起きています。ボッシュは自動車関連事業の再編により、ソフトウェアを主軸とした自動車開発に向かう市場トレンドに対応します。ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会会長の[シュテファン・ハルトウング](#)は年次記者会見にて、ボッシュ モビリティは将来、ロバート・ボッシュ GmbH 内で自らの事業とリーダーシップチームに責任を負う事業セクターとして運営されると発表しました。これにより、カスタマイズしたテクノロジーとソリューションをワンストップで提供することで、既存および新規の顧客ニーズに対して、より良く、より迅速に対応することが可能となります。ボッシュ モビリティは、世界 66 カ国、300 以上の拠点に約 23 万人の従業員を擁し、ボッシュの 4 つの事業セクターの中で最大の規模になります。

「ソフトウェアは、将来の自動車の使い方や体験を変えるだけではありません。自動車の設計も変えるのです。ボッシュは以前より、自らを自動車向けソフトウェア企業と見なしてきました。そして今、私たちはお客様の要求に対応し、さらなる成長を遂げるために体制を変えているのです」と、ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバーであり、5 人で構成する強力なボッシュ モビリティ事業セクターボードの会長となる[マルクス・ハイン](#)は述べました。2024 年 1 月 1 日をもって同事業セクターの各事業部の一部が再編され、部門を超えた共通の責任がすべての事業部に与えられます。ボッシュは新体制において、モビリティソリューションズだけで 2029 年までに全世界で 800 億ユーロ超の売上を上げることを目標としています。

2020 年代後半に予想されるソフトウェア・ディファインド・ビークル(SDV)の最初の波
この成長の柱の 1 つは自動車用ソフトウェア市場です。この市場は、SDV のトレンドに後押しされ、2030 年までに 2,000 億ユーロを大幅に超える規模に達する可能性があります。これは 2020 年の 3 倍です。ポッシュは今のところ、この市場において 2 桁成長を続けています。現在では、自動車業界全体がソフトウェア開発により一層力を入れています。開発コスト全体に占めるソフトウェアの割合は、2030 年までに約 30% になる見込みです。ポッシュでは、すでにそれを上回っています。現在すでに、ポッシュ モビリティで研究開発に携わる全従業員の 50% が、ソフトウェアエンジニアです。SDV には、2 つの優れた利点があります。第一に開発のスピードです。既存システムへの新機能の実装に何年もかかることがなくなり、将来的にはほんの数日になるでしょう。二番目の利点は、ソフトウェアとハードウェアの開発の分離です。これは、ソフトウェアのアップデートを通じて、より長く新車のように感じられることを意味します。これについて、ハインは次のように説明します。「世界中のドライバーは、自分の車をデジタルの世界にシームレスに統合したいと考えています。結局、私たちは、スマートフォンが常にアップデートされ、新しい機能を持つことに慣れてしています。現在、私たちはこれを自動車にも適用しようとしています」。ポッシュは 2025 年以降 SDV が大規模に導入されると予想しています。

自動車開発の新しいトレンドをポッシュの組織に反映

ビークルモーションマネジメント(車両挙動制御)の例は、ポッシュ モビリティの再編と部門間の連携強化が、自動車開発におけるトレンドにいかに関与しているかを示しています。これは、より迅速かつ正確に車両を安定させる新しい制御コンセプトです。ブレーキシステムだけでなく、電動パワートレインや電動ステアリングシステムにも介入することができます。これにより、停止距離の短縮に役立ち、ドライバーが行う運転上の修正操作が大幅に減少し、道路の安全性を高めます。そのための技術的なベースが、最新のブレーキコントロールシステムである次世代横滑り防止装置(ESC)と、そのソフトウェア機能であるビークルダイナミクスコントロール 2.0 です。ビークルダイナミクスコントロール 2.0 が特徴的なのは、ESC のコントロールユニットの一部である必要はなく、セントラルビークルコンピューターに統合可能な点で、将来的には、独立したソフトウェアパッケージとして利用できるようになります。しかし、これはほんの始まりに過ぎません。ポッシュはソフトウェアアプリケーションが 3 倍に増加し、クラウドにアクセスするアプリケーションは 10 倍に増加すると予想しています。

ポッシュ: 自動車のハードウェアとソフトウェアで成功を収めるプレーヤー

SDV は、新しい、集約化された E/E アーキテクチャと連携します。最新のプレミアムクラスの車両には、100 を超えるコントロールユニットが搭載されています。現在のコンパクトクラスの車両でさえ、30~50 個のコントロールユニットを備えています。「私たちは、複雑な電子システムを管理し、できる限り信頼性を高めることに焦点を置いています」と、ハインは述べています。将来、コックピットやネットワーク化機能、運転支援システムや自動運転、パワートレインなど、さまざまな車両領域で高性能なコンピューターを使用することで、コントロールユニットの数を大幅に削減することが可能になるでしょう。そのためにポッシュは、クラウドからセントラルビークルコンピューター、個々のコン

トロールユニットに至るまで、車両全体の統一された IT アーキテクチャを開発しています。ボッシュの大きな強みのひとつは、ソフトウェアとハードウェアの領域に同じように精通していることです。ボッシュはテクノロジーとサービスのサプライヤーとして、ブレーキやステアリングシステムに加え、燃料電池、バッテリー、水素エンジンでテクノロジーニュートラルなアプローチを追求する環境に優しいパワートレインなど、最新の自動車の主要コンポーネントを一貫体制で開発・製造しています。その中には、自社製ソフトウェアを組み込んだ年間 2 億 5,000 万個以上のコントロールユニットも含まれますが、それだけではありません。ボッシュはますます重要性を増している、多様なソフトウェアの統合や、自動車業界と IT 業界のコラボレーションによるソフトウェアの統合という、新たな分野でも専門性を発揮しています。ボッシュは自動車関連事業を再編することで、この統合に関する専門知識を拡大します。

セクターボード、管理職、従業員が再編に貢献

ボッシュ モビリティ事業セクターボードは、各事業部の従業員および管理職と協議して事業セクターの新たな構成を定めました。再編にあたっては従業員代表の参加権が遵守されます。組織的に言えば、事業セクターは将来 7 つの事業部で構成されます。その一部は再編され、全事業部において共通の責任が新たに決められたケースもあります。より具体的に説明すると、エレクトリファイド モーション事業部は、eAxle からシートアジャスターまで、電気モーターに関連するすべてに関与します。ビークル モーション事業部は、ABS や ESC からステアリングまでのビークルダイナミクスを扱います。パワー ソリューション事業部は、内燃機関、モビリティ用途および定置用燃料電池、電解槽、水素エンジンを扱います。クロスドメイン コンピューティング ソリューション事業部は自動パーキングから自動運転まで、さまざまな分野のソリューションを開発します。モビリティ エレクトロニクス事業部は、コントロールユニットの開発とともに、半導体の内製化も推進します。モビリティ アフターマーケット事業部はスペアパーツ市場とボッシュ・カー・サービスのフランチャイズ展開を担います。電動自転車システム事業部は、ドライブユニット、充電式バッテリー、ABS、ネットワーク化されたディスプレイを含む eBike 用のシステムソリューションを提供します。ボッシュの子会社である ETAS は、オペレーティングシステムとエンジニアリングツール用のハードウェアに依存しないソフトウェアに関して、水平的な責任を負うこととなります。

ボッシュ モビリティ事業セクターボードは、傘下にあるすべての事業部と部門に対して責任を負います。同委員会の構成メンバーは以下の通りです。

マルクス・ハイン:	ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバー ボッシュ モビリティ事業セクター統括部門長
アンドレアス・デンプ:	ボッシュ モビリティの全世界の営業と顧客責任者
ウヴェ・ガクシュタッター:	ボッシュ モビリティの商務責任者
クラウス・メーダー:	ボッシュ モビリティ傘下の全世界の工場と品質を含むオペレーション責任者
マティアス・ピリン:	ボッシュ モビリティ全体のテクノロジー責任者

報道関係対応窓口:

Jörn Ebberg

電話: +49 711 811-26223

Twitter: @joernebberg

モビリティは、ボッシュ・グループ最大の事業セクターです。2022年の売上高は526億ユーロで、グループ総売上高の60%を占めています。モビリティの売上により、ボッシュ・グループはリーディングサプライヤーの地位を確立しています。モビリティソリューションズ事業は、安全でサステナブルかつ魅力的なモビリティを目指し、パーソナライズ化、自動化、電動化、ネットワーク化の領域においてグループ全域にわたる知見を結集させ、お客様にモビリティのためのトータルソリューションを提供します。その事業領域は主に、内燃機関の燃料噴射テクノロジー／パワートレイン周辺機器、パワートレイン電動化のさまざまなソリューション、車載向け安全システム、ドライバーアシスタンスシステム／自動化機能、ユーザーフレンドリーなインフォテインメントやVehicle-to-Vehicle（車車間）およびVehicle-to-Infrastructure（路車間）通信、オートモーティブアフターマーケット向けのリペアショップコンセプト／テクノロジー／サービスなどです。さらにボッシュは、電気駆動マネジメントや横滑り防止装置ESC（エレクトロニックスタビリティコントロール）、ディーゼル用コモンレールシステムなどの自動車重要な革新技術を生み出してきました。

世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2022年の従業員数は約42.1万人（2022年12月31日現在）、売上高は882億ユーロ（約12.2兆円*）を計上しています。現在、事業はモビリティ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・ビルディングテクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュはIoTテクノロジーのリーディングプロバイダーとして、スマートホーム、インダストリー4.0さらにコネクテッドモビリティに関する革新的なソリューションを提供しています。ボッシュは、サステナブル、安全かつ魅力的なモビリティを追求しています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にまたがるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ボッシュ・グループは、AI（人工知能）を搭載する、もしくはAIが開発・製造に関わった製品を提供することで、コネクテッドライフを円滑にすることを戦略目標に掲げています。ボッシュは、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社440社、世界約60カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュは2020年第一四半期に、世界400超の拠点をカーボンニュートラルを達成しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界136の拠点を約8万5,000人の従業員が研究開発に、そのうち約4.4万人がソフトウェアエンジニアリングに携わっています。

*2022年の為替平均レート、1ユーロ=137.9900円で計算

さらに詳しい情報は以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト（英語）

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス（英語）

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター（ドイツ語）

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト（日本語）

<https://twitter.com/Boschjapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター（日本語）

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック（日本語）

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式YouTube（日本語）